

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071401097		
法人名	有限会社 中山メディカルサービス		
事業所名	グループホーム おあしす ありた		
所在地	福岡県福岡市早良区有田6丁目2-5 (電話) 092-801-7934		
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 1 日	評価結果確定日	令和 4 年 3 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用料を生活保護や低所得者の方でも安心して入居できる価格設定にしています。例年ならば近所の保育園・小学校・中学校・高校の交流、福祉学習の提供し子供たちと触れ合う場、又、地域の皆さんに施設を知ってもらえるきっかけ作りを行っていたが、コロナまん延の為、中止になっています。コロナが落ち着き次第に再開し、交流の場を広げていきたいと考えています。また、PTAの連携として「子供110番」の登録を行ったり、公民館と連携を取り地域の清掃活動の計画を行って、早良区、西区で発足した「いとのかい」のメールでの参加等を等して交流を図り、情報交換の場を作っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaiakensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 4 年 2 月 24 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は3ユニットあり、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所が併設されている。周辺は交通量が多く、市営住宅やマンション、高校があり、賑やかな環境にある。職員は各ユニットの入居者同士やデイサービスセンター利用者とも交流できるよう行事企画し実行している。共用空間の飾り物や居室のレイアウトは、各ユニットそれぞれの利用者、職員のアイディアにより、ユニット独自の雰囲気がある。医療体制は手厚く、受診時も職員が送迎や付き添いを行い支援している。日頃から職員同士の意見交換、協力体制が構築され、業務応援、休暇希望、資格取得のための研修受講に関わるシフト調整など自己実現に向けた働きやすい環境にある。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流を取り組んだ理念を作り、毎朝申し送り後にスタッフで唱和し、意識付を行う。	事業所理念は各ユニットの朝礼で唱和し、意識を高めている。管理者は日頃から利用者に対する職員の声掛け方法や態度など、理念に沿わない不適切なケアが行われていないか観察し、必要時は指導している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園交流、近隣の教育機関、社会学習、ボランティアの受け入れ、室見川の清掃活動に、毎年参加を行っていたが、今年はコロナの為、中止になっている。	コロナ禍前は事業所が地域の一員として存在できるよう地域清掃や敬老会、夏祭りなどに参加したり、保育園児・小学生・高校生の慰問、中学生の職場体験学習の受け入れのほか、地域住民が事業所内の草刈りをしてくれる等の交流があった。感染状況をみて交流活動を再開する方針である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年なら運営推進にて、包括支援センターや民生委員の方に認知症について話す機会を設けていたが、コロナの為中止となり、郵送により意見を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が中止となっている為、スタッフと話し合いを行い、利用者の状況、行事、スタッフの状況等を郵送にて行い、助言を郵送にて頂き、元にスタッフと共有しサービス向上に努めている。また、定期的にいきいきセンターと民生委員に資料を送付し返信用の意見用紙を同封し意見を求めている。	コロナ禍のため、運営推進会議は入退去状況、活動実績と予定、研修報告などを文書でまとめて構成員へ送付している。構成員の意見はアンケート用紙に記載され、返送されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括、保護課との連携はできるだけ、電話にて連携を取れるように行っている。主催の研修は、カメラ付きのパソコンを購入しリモートでの研修会にできるだけ参加するようにしている。	管理者は生活保護に関する書類手続きや受診相談、生活状況報告などケースワーカーと連携している。地域包括支援センターから入居相談があった場合は、面接や事業所内見学にも対応している。今後も行政と連携し、協力できることがあれば取り組む予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での研修を行い参加し、ユニット内でも周知を図っている。マニュアルいつでも見える所に置き、見守りの強化、声かけの工夫を行い、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	身体拘束は行わない方針であり、委員会や新入職員のオリエンテーション時、年2回の内部研修会で、身体拘束に関する基礎的内容やスピーチロックについて学んでいる。外出傾向のある利用者については、利用者の気持ちに寄り添う支援を行っている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修を行い参加し、ユニット内でも話し合いを行っている。朝の申し送り時にも利用者一人一人に、ケアについて虐待がない様に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での研修を行い参加しユニット会議でも話し合いを行い、必要な際は関係者と話し合いを行い支援を行っている。	権利擁護に関する制度について、必要時に家族へ説明を行っている。職員が制度について学ぶ機会が設けられていない。	制度についての情報提供や家族からの相談体制の構築は、利用者が安心できる暮らしの支援につながる。高齢者の尊厳と自由を守るためにも、職員が制度について学ぶ機会を設けてほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、需要事項の内容、グループホームについての説明を詳しく行い、質問等に答える時間を設けて、納得の上、署名捺印を頂いている。料金改正や内容変更があった際には文章、面会時、電話にて説明を行う。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との情報交換、コミュニケーションを密に図り関係づくりを行い意見を言いやすい雰囲気をつくり、意見を頂いたら職員で共有し対応をする。契約時には苦情窓口の説明を行い、廊下ユニット内に介護保険苦情相談窓口のポスターを張り、廊下に意見箱の設置を行っている。	日頃のコミュニケーションから、買い物や手芸などの趣味の継続、食事席の変更など利用者の意見や要望を運営に反映するよう努めている。家族からの意向等については、コロナ禍により面会中止としているため、電話で確認を行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者だけではなく、ユニット会議、申し送りにて職員の意見を聞き、運営に反映させるようにしている。	管理者は職員とのコミュニケーションを大切に、会議だけでなく、日頃から運営に関する提案があれば、実践につながるよう努めている。ユニットごとの飾りつけや行事計画、パッド種類の選定、福祉用具購入等運営に反映させ、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、自己評価や面談を通して日々の実績を評価し努力が反映されるような制度を設けている。面談にて意見を聞き改善できる所は改善し、やりがいを持って働けるように努めている。研修や役付けを行う事で向上心を持ちやりがいを感じて働けるよう環境づくりを行う。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	スタッフ採用については、年齢、性別、性格は判断材料から外し、本人のやる気、能力、人柄で判断する働く職員には、研修に参加させたり、意見を取り入れたり、挑戦したい仕事があれば可能な限り行うように配慮する。	外国人や無資格者の採用も行っている。介護従事者として自己研鑽できるよう資格取得のための研修や希望する外部研修会にも参加を認め、受講料に対して一部補助もある。研修受講に関わるシフト調整や希望休暇、連休など職員のプライベートに配慮した働きやすい環境作りに努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権の研修に参加して、ユニット会議、申し送り時他の職員に伝えるようにしている。又、ユニット内での勉強会を行っている。	高齢者、認知症の方に対する人権について、接遇面や虐待につながらないよう研修が実施されている。過去にはHIV感染者について理解を得るために内部研修会を実施している。今後も人権学習のテーマの幅を広げ、学習する予定である。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加してもらい、他の職員もその研修の取り組みにユニットで参加できるように行っている。研修に行った場合は、なるべく勤務扱いにすることで働きながら学びやすい環境を作っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加する事によりそこで知り合った同業者と情報交換を行う。例年なら、近隣の施設の行事に積極的に参加していた。西区 早良区のいとの会にもメールによる情報交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、本人、家族、関係者と面談を行い話を聞き情報収集をして、本人のニーズの把握に努めている。入居初期には、コミュニケーションを重視し、信頼関係づくりや環境に馴染める様に配慮し、安心した生活が送れる様に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や、契約時には家族の意向を聞き、サービスを開始するうえでの要望や不安等を聞き関係作りに務める。面会時には、コミュニケーションを図り情報交換を行う事で、信頼関係を築き良い関係作りができるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	常に状態観察、情報収集に務めその時必 要なサービスを見極めて支援できるように 努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	本人の立場に立って寄り添う介護を行う 様に心がけ信頼し合える様な関係作りに努 めている。日頃より、家事 食事、レク レーションを行い 家庭的な雰囲気重視し 共に生活する他の利用者様とも関係性がで きる様に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	本来なら行事等で家族と触れ合えるきっ かけを作り行っていた。面会時に情報共 有、こまめに情報報告などで本人を支えて 行く関係性作りに努めている。毎月、新聞 を発行し近況報告 写真をのせ郵送してい る。（入居時説明にて了承頂く）		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	ユニット内に入る面会が中止となり、面 会時には、窓越しで電話にて話ができる様 にと、外のベンチにてパーテーション設 置での面会を行っていた。携帯が持てる利 用者様にはいつでも電話をかけてもらい、 リモートが行える家族の方にはリモート対 応。又、施設の電話にていつでもお話がで きる様に体制をつくっている。	入居前の生活状況は関係者から情報を集 め、フェイスシートに記載し、職員間で共 有されている。知人との手紙でのやり取り や地域の敬老会への参加、馴染みのスー パーへの外出のほか、受診時には自宅前を 車でドライブする等、利用者に寄り添った 支援を心がけている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性を把握し、トラブルにな らない様に配慮し日々の会話 レクレー ションを通して、馴染みの関係性ができる 様なきっかけ作りを行う。利用者様同士で の 話が合わない時等橋渡しを行いコミュ ニケーションがスムーズに行く様に支援し ている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	お手紙とか、転入された利用者様等こま めに電話等を掛け、関係が切れない様に配 慮し、必要な時は相談に乗ったりもしてい る。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーション、その時々 の状態を通して意向の把握に努めている。聞き出された希望は可能な限り、叶えてあげられるように支援を行い、困難な際は本人の立場に立って本人本位で検討するように努めている。	職員は利用者と日々の会話や関わりの中から、希望や意向を把握している。食べたい物や買い物の希望は多く、これまでは利用者と一緒に買い物に出かけていたが、コロナ禍のため、希望を聴いて職員が購入するという形で支援している。意思疎通の困難な利用者については、行動や表情を観察し、思いや意向を推し測るように努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族やケアマネから生活歴、経過等の情報を収集し把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状態観察を行い、職員同士で情報を共有し合い1日の過ごし方、ADLの現状把握に努めケアに活かしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でそれぞれ日頃からコミュニケーションを聞き出しお互いに気づきを話し合い計画作成に活かしている。家族とも、面会時や電話にて意見を聞き、医療機関とも連携を図り意見を聞き計画書に取り入れている。	計画作成担当者は、全職員に利用者についてのモニタリングを行い、できている事や気付いた事など意見を取りまとめている。主治医からも介護計画についての意見を聞き、計画に反映させている。計画について、利用者に説明を行い、サインをもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子ケアについては経過記録に記入又、1週間の状態をまとめ状態の変化をはあして職員同士で共有し実践に活かす。会議、申し送り時意見を出し合い情報の共有計画書に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃より本人、家族又、職員とコミュニケーションを重視し、その時々ニーズに合わせた柔軟な支援を行なわれる様に心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の教育機関、公民館等のサークルの受け入れが中止となる事が多かったが、地域の医療機関、訪問理美容等の受け入れ豊かな暮らしができる様に支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する馴染みのかかりつけ医院刷る事を大切にし受診できる様に支援している。又、病状にあった医療機関（耳鼻科、皮膚科、眼科等の）提案も行い医療機関との情報を行い関係づくりに勤めている。	契約時に、かかりつけ医についての希望を家族に確認している。これまでのかかりつけ医の受診希望があれば、職員が受診に付き添い、受診後は家族へ報告を行っている。整形外科の往診や、毎日内科医の往診があり、密に連携を摂れる体制がある。利用者の状況に応じて、耳鼻科、歯科、皮膚科の往診を家族と相談しながら調整している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週4～5回看護師が勤務しており、その際には現状報告を密に行っている。又、急変時には母体医院に24時間連絡が取れる様になっている。往診時にも利用者の状況報告を密に行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃から受診時や変化のあった時は主治医とこまめに情報交換を行い連携を図り、入院時にも安心して治療を受けられるよう配慮している。現在は面会が出来ないが入院中も定期的に電話にて担当者より情報を聞き連携を取り出来るだけ早く退院出来るように対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は人員や設備などの関係で医療ニーズが高い利用者はその方の状態に合った施設を紹介している。その旨を見学時や入居契約の際に十分説明し了承を得て頂いた上での入居となっている。また、日頃より情報交換を行い状態に変化があった際には往診時に医師より家族に現状の説明を行ったり、こまめに状態報告を行い事業所でできる事を行いながら本人、家族と共に今後の方針を共有しサポートしている。（重度化の方針の冊子あり）	終末期に向けた事業所の方針が明文化されている。入所時に意向を確認し、書面に残している。利用者の状態に変化があれば、主治医から説明を行い、今後について家族の希望を確認している。看護師の配置があり、服薬管理や排便状況について相談できる体制がある。利用者の状況や家族の意向について、朝礼やミーティング時に職員間で情報共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回避難訓練を行い、その際に応急手当に関する勉強会を行う時間を設けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行なっている。その際は日勤帯、夜勤帯それぞれを想定した訓練を行っている。現在はコロナの関係で地域への働きかけが出来ていない。	年2回、夜間想定を含む避難訓練を消防署の協力を得て実施している。地域住民に向けて避難訓練の呼びかけのチラシをポスティングしている。非常用備蓄は各ユニットごとに備えている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格や尊厳を尊重し、さりげない言葉かけや対応が出来るように工夫している。プライバシー保護にも配慮している。また申し送り時や会議にて意見交換を行いそれぞれの言葉かけや対応について振り返る時間を設けている。	トイレ誘導時や失敗があった際には、周囲に分からないように声かけをしている。利用者の誇りを損ねないよう、失敗した事には触れないよう配慮している。更衣はドアやカーテンを閉めたり、パーテーションを使用して、周りから見えないようにしている。起床、就寝時間など利用者の希望や生活スタイルを尊重して、利用者本位に過ごせるよう支援している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も職員が決めてしまうのではなく、本人の希望や意見を聞き、出来る限りそれを最優先させる。難しい際には選択肢を与える等工夫する。意思表示の難しい方は日頃より表情や仕草を観察し読み取り対応出来るように気を配っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた介護をするようにしている。朝のレクの時間にどう過ごしたいか聞いたり出来る限り希望に添えるように柔軟に対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には出来るだけ本人に選んでいただく。理美容の際には本人に希望を聞き好む髪型になるようにしている。衣類購入希望があれば一緒に買いに行く等その人らしいおしゃれが出来るように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の献立は決まっているが、利用者が食べたいものがあればそれに変更したり、行事の際に提供する等献立に取り入れる様にしている。利用者の出来る力に合わせ準備や片づけを一緒に行っている。	職員は利用者と一緒に食器洗いやテーブル拭き、下膳などの準備や片付けを行っている。週2～3回の昼食と夕食を、利用者の希望のメニューを聞いて、献立から考えて手作りの食事を提供している。毎月、ひな祭りのちらし寿司やお弁当、お寿司などを行事食として提供し、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた食事形態、量にて提供し摂取量等を記録している。水分チェック表を記入し一日の摂取量を観察しなかなか水分の取れない方はこまめに少しずつ提供したり本人の好む飲み物を提供したり水分や栄養を確保出来るように工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、朝昼夕食後に口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。自力にて出来るところは行って頂き不十分な所は介助する。必要な際にはすぐに歯科往診を依頼し対応している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ずつ排泄チェック表を付け排泄パターンを把握し必要な方は定期的に誘導し、なるべくパットやリハパンに頼らないケアをしている。	職員は利用者の排泄のサインを見逃さずに、トイレ誘導を行っている。できるだけ見守りでの支援にとどめ、利用者のできることを奪わないように気を付けている。介護度の重い利用者でも、日中・夜間帯を問わずトイレでの排泄ができるよう誘導している。介護度の重い利用者には、ポータブルトイレを設置し、介助している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ずつ排泄チェック表を記入し、間隔や量を把握する。また食事や軽い運動を行うなどスムーズな排便に繋がるよう日頃より気を付けている。それでも便秘がちな方は医師に相談し服薬等でコントロールしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週4日入浴日を設けている。一人一人の状態や希望に合わせて対応出来るようにしている。また、入浴日以外でも希望や急な汚染に対応可能である。	週2回入浴が行えるよう支援している。利用者の希望があれば、いつでも入浴できる体制を整えている。入浴を望まない利用者には、日頃の表情を見て、声かけのタイミングを見計らい声かけを行っている。入浴前には利用者が楽しくなるような会話や、気分転換を行って、声かけを行ったり工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠につながるように、またADLの低下を防ぐためレクリエーションや体操や散歩の時間を作っている。しかし無理強いはずせず過ごしたい様に一日を過ごせるように配慮している。就寝時間も特に決めておらず本人の生活習慣に合わせるように配慮する。不安や眠れないなどの訴え時には傾聴し落ち着くまでできる限り寄り添う。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを作りセット時や変更時には必ず目を通し把握に努める。セット時には2～3人で確認しながらセットしミスを防ぐ。配薬時には日付け、名前、いつの薬か必ず声に出し2人以上で確認するようにしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や入居後も情報収集に努め生活歴や本人の趣味、嗜好を活かして日々を楽しむや張り合いを持てるように配慮している。定期的に行事を計画したり日々の生活の中で気分転換になるようなレクを計画したりしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナの影響でなかなか外出支援が出来なかったが車中から桜を見たり感染のリスクがないように考慮しコロナ禍でもできる限りの支援を行った。	以前は、季節のお花見や野球観戦、ショッピングや外食に出かけていた。コロナ禍となり、近所の公園への散歩やドライブを行っている。初詣気分を味わってもらおうと、職員が祝い餅、おみくじを準備し、利用者に雰囲気を楽しんでもらえるよう支援している。コロナが落ち着けば、利用者の希望や意向に沿って外出できるように検討している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力のある方は手元にお小遣いを持ち、買い物の際には自分で支払いが出来るように支援する。管理能力のない方も支払い時に可能な限り自力にて支払いが出来るように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には何時でも電話が出来るようにしている。又、携帯電話を持たせたいとの希望があれば携帯を持って頂いている。手紙、年賀状、暑中見舞いのやり取りが出来るように支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように装飾をしたり、カーテンや壁の色は自然な色を使用している。こまめな換気と温度管理を行い快適に過ごして頂けるように配慮している。	利用者と職員と一緒に作成した装飾が飾られ、季節感のあるリビングとなっている。利用者がくつろげるようにソファを配置したり、車いすでも移動が楽に行えるよう、家具の位置に配慮している。職員は利用者と一緒に、朝夕の体操や歌を歌ったり、明るい雰囲気となっている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルやソファがあり一人一人が好きな場所で過ごせるように配慮している。また普段の座席も人間関係を考慮し配置している。何かあれば席替えをするなど柔軟に対応している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室 短期利用の際には 危険物以外は利用者が使い慣れた物おける様にしている。本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には、利用者の使い慣れたタンスや椅子、仏壇、テーブル、TV、時計や趣味の物、携帯電話などが持ち込まれている。利用者が居心地良く過ごせるように、好きなようにレイアウトしてもらっている。利用者の手作りのクッションなどが飾られて、個性豊かな居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室や居室には分かる様に貼り紙しており、各入口ユニット内、施設内はバリアフリーになっており、自立した生活が送れる様に配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おあしすありた」の名の下に「穏やかな気分で安心して信頼される素晴らしい介護を目指す」というわかり易く親しみがある理念を基に、日々介護を行わせて頂き、地域・医療・福祉の連携をとるようにしている。来られた方にもわかりやすいように玄関に貼付している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症の関係で現在は実施出来ずにいるが、近隣の保育園・公民館・小学校・中学校・高校等と連絡を取り続けておりコロナが落ち着き次第イベント等で交流が持てるようにしている。子ども１１０番の指定など地域に役立つ取り組みを行っている。コロナ流行前は避難訓練の際などは近隣の住民に参加を呼び掛けている。コロナが落		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ流行前は地域の教育機関と連携を取り、子ども達に福祉学習として場所の提供を行っている。また、その際には認知症の理解や施設のことなど噛み砕いて説明し理解を深めて頂いている。コロナが落ち着き次第再開予定である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ流行前は地域包括センターの方や、民生委員の方等参加して頂き意見を基に、各ユニットで会議を行った際にスタッフへ報告、意見交換を行い、サービスの見直しを行っている。コロナ流行のため現在は2ヶ月に1回各ユニットで作成した議事録を送付させて頂き、後日返信を頂き意見を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者様が多く居られるため、定期的に保健福祉課へ連絡を取り、情報を提供している。またオムツサービスなど市町村のサービスを積極的に取り入れている。役職の変更届等手続きの際にわからないことがある場合は市役所と連携をとり、協力を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の方針で、身体拘束は契約書にも記載した上で全面的に禁止にしている。見守りを徹底しており、危険を察知したらすぐに駆け寄り事故を未然に防ぐ様に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の介護の際声掛け等でもスピーチロックになってはいないか、入居者様への声の掛け方や対応の仕方などをスタッフ同士で確認し合い、虐待の防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族様の状態などを考え、成年後見制度が必要であると感じた場合などはお話しをし、活用できるように噛み砕いて説明している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にも入居予定者様やご家族様の取り巻く環境を確認し、実際に施設を見学をして頂き、入居予定者様の所まで面談に行っている。 契約まで十分な時間をかけ、不安などを一つずつ解消し、わかりやすく話している。 解約や改定時もわかりやすく説明をし納得して頂いてから同意を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見箱を設置しており、気軽に意見を頂ける様にしている。ご家族様が面会に来られた際やお電話を頂いた際は、入居者様の生活の様子をお伝えすると共に、何かご意見やご要望等がないかお尋ねし、ご意見や入居者や家族から出た意見や要望は小さなことでもユニット会議で取り上げている。 また、出た意見を運営会議にて報告し、運営に反映できるようにしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関することも含めた意見や提案を、日常の勤務の合間やユニット会議などで常に聴くように心掛けている。 出た意見は運営会議などで報告し活かせるよう取り組んでいる。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが希望する研修等積極的に参加できるように調整を行っている。スタッフの能力に合わせて委員会等役割を担ってもらい、やりがいや向上心を持って働いてもらうように努めている。パート職員の時給アップを行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢などを理由に採用を排除せず、介護や高齢者に対する熱意やその人の人柄、介護観を重視している。 希望の研修には参加できるよう調整し、初任者研修の資格取得が出来るよう受講料の援助も行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	コロナの流行前は年1回は人権教育に関する外部研修に参加する様に心掛けて研修案内を注意してみる様にしており、申し込みが出来た際には参加してもらうようにしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験や能力に合わせて、認知症実践者研修や管理者研修等の受講を促しスキルアップの機会を確保している。 法人として未資格者には初任者研修の資格取得が出来るよう受講料の援助も取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ流行前は西区・早良区で結成した「いとのかい」を通じ、勉強会の開催に参加をして交流をしていた。LINEの連携網に所属しており現在も情報の閲覧等行い交流は継続している。あおしす系列の他の施設・同じ敷地内の他事業所との連携を大切にしており、法人全体の他施設も含めた合同の研修会に参加し交流が出来ている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面談を行い、ご本人様の情報収集のため病院や施設に赴き不安なことや困っていること、要望等を確認し、少しでも安心して頂けるように努めている。入居に不安がある際はショートステイを勧め体験をして頂き、納得して頂いてから入居をして頂いている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談を行い、困っていること、不安なこと要望などを傾聴し、聴き取りをさせて頂いている。 不明な点があれば、いつでも施設へご電話を下さいとお伝えし、寄り添える関係になるよう、常に傾聴をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	見学時にしっかりと状況等を聴き、今の状 況に必要な支援が何かを考え、必要があれ ば当事業所のケアマネに相談し意見を求め ている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	介護をさせて頂く人とされる人の立場だけ ではなく、暮らしを共にする同士として役 割を持って頂き、洗濯干しや掃除等が出来 る入居者様には一緒に行って頂き手伝っ て頂いた時は、感謝を込めたお礼の言葉と毎 回の労いの言葉をかけている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	ご家族様へは気づいたことがあれば何でも 連絡・相談を随時行ってる。その際には本 人様と極力電話にて話してもらい交流を図 ることで絆を大切にしてもらおう様努めてい る。 海外在住のご家族様にはLINE等用いて柔軟 な対応をすることにより、よりよい関係を 築いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	コロナ流行前は面会に関しては制限せず、 友人等の面会もキーパーソンに確認をと り、許可が出れば行ってもらっている。 入居者様の馴染みの方との関係を継続出来 る様に年賀状や手紙での交流を支援してい る。病院受診やユニットの行事で外出した 際は入居者様の馴染みの場所に遠回りをし ている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションやテーブルでの入居者様 のやり取りの際極力スタッフが間に入り、 関わり合いが円滑にいく様に支援する様努 めている。 また気の合う入居者様同士居室の行き来も して頂いている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	コロナ流行前は契約終了後で系列の施設に 移った元入居者様にの元へ面会に行くこと もあり、必要時は再度情報提供を行ってい る。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介助の際常に声掛けを行い、入居者様と1対1で表情や態度をくみ取り、意向を把握する様に努めている。 意向を伝えるのが困難な入居者にはハイ・イエエ等わかりやすく返答出来る様にしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	見学や面談の際にこれまでの生活歴や暮らし方、生活環境など、ご本人様とご家族様に詳しく聞き取りをしている。 また、日々の生活の中で今までの暮らし等を会話の中や行動などから把握する様に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りの際に大きな事柄だけではなく、些細な会話や状況等も細かく伝え、それを元に別のスタッフの介助の際はどのような様子だったか等スタッフ間で共有し一人一人の心身状態、現状の把握等に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者や管理者が本人様、ご家族様の意向を確認し、様々なスタッフに聞き取りを行い、それを基にアセスメントを記入することで、ニーズを上手く引き出せるようにしている。 担当者が仮で介護計画を作成し、スタッフの意見を参照することで偏りのない介護計画を作成する様に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に日々の様子や状態を記入し、違った様子がみられた際は詳しく記入する様にスタッフに伝達している。各担当者がスタッフ間で得た情報を詳細にアセスメントに記入することで、入居者様への対応や介護計画の見直しに活かすように努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様から依頼がある際、既存の状態に捕らわれずに施設長等に相談し少しでも対応できる様に努めている。 食事や嗜好品等の細かな対応や、母体の送迎リハビリも一部の方を対象に行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ流行前は教育機関と協働し、入居者が地域の子供たちと触れ合う環境を提供している。訪問理美容にてより自分らしい豊かな暮らしをして頂ける様にしている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診が必要な入居者様には、協力医療機関や往診が出来る病院等いくつか紹介し、その中でご家族様や本人様がかかりたい病院を選んで頂いて受診している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師と連携するために、情報共有の連携ノートを活用し、口頭説明し入居者様一人一人の状態を把握して頂いている。 特変時等いつもと様子が違う際、に母体のかかりつけ病院の看護師と24時間電話にて相談することが可能なため、入居者様もスタッフも安心して対応出来るよう支援を受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医より入居者様の入退院時またはその期間中に説明がある際は、ご家族様に了承してもらい、入居者様の病状、退院後施設で入居者様に必要なことについてスタッフも一緒に同席しご家族様と話し合いの場を設け、関係づくりに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学や面談、入居時の契約の際に重度化についての説明をしっかりと行っている。 入居時の契約書の一部に緊急時・終末期についての同意書のページがあり、現時点の希望を記入して頂いている。 終末期が近づいた際は何度も話し合いを行い、ご家族様が不安にならないようにかかりつけ医との話し合いを何度も行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時の対応を電話横に掲示しており、いつでも確認し対応出来る様にしている。応急手当で普及員の講習を少しでも受講出来る様支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日勤想定、夜勤想定 of 避難訓練を行っている。コロナ流行前は近隣の住民の皆さまにお知らせをポスティングし、避難訓練のお知らせとご参加を募っている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重やプライバシーが保たれていない際、気づいた際にスタッフ同士で声を掛け合い、適切にお互い注意を行っている。声掛けは特に配慮が必要な際は、居室等他者の目に触れない場所に対応している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でスタッフ中心にならない様に、常にまず声掛けを行い、介助に同意いただけるか尋ねてから介助をさせて頂ける様にスタッフに指導している。自己決定が難しい入居者様には、ハイ・イエで簡単に答えるように支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ユニットのタイムスケジュールに縛られず、入居者様一人一人に合わせて、入浴や食事、レクリエーション等その日の体調や気分などで無理強いせず、希望に沿って支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪留めやヘアバンド等その人らしいアクセサリーを使用し、身だしなみを整える支援を訪問理美容を利用し、カットや顔そり、カラーをして頂くことでその人らしいおしゃれを楽しんで頂く様にしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の簡単なテーブル拭きやトレイの配膳等お手伝いをして頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し、足りない方には医師と看護師と相談の上、カロリーの範囲内で好きな食べ物や飲み物等を提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状況に合わせて適切な口腔ケアを支援している。 一部の必要な方は週1回訪問歯科で口腔のチェックと衛生管理をしてもらっている。 コロナ流行前は月1度の松尾歯科の指導を受け、学んでいる。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックリストを参考にして、パターンを確認し、早め早めの誘導を行い、失禁を減らす様に努めている。 退院後は排泄チェックリストを記入し、参考にしてオムツからリハビリパンツへの変更等検討を行い実行している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を把握するために、チェック表にて管理を行い状況を確認し、適宜下剤を使用している。 排便コントロールが上手くいっていない入居者様のご家族様に相談し、バナナ等便秘により食べ物等を購入して頂ける方には了解を得ている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人様のその日の状態により、拒否があれば希望を聞いた上で再度声掛けを行い翌日や、清拭等に変更し支援している。 個浴にて一人ずつゆっくり入浴して頂いている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適宜訪室し、湿度や温度を確認することで入居者様それぞれが心地良い環境になるように注意している。 眠れない入居者様には、傾聴を行い、温かい飲み物等提供して快眠できるよう支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルにて最新の服用している薬がいつでも見れるようになっており、副作用等も確認出来る様にしている。往診後に薬の変更があった際は申し送りノートに必ず記入することで、変化も含めてスタッフが確認する様に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や嗜好品などの情報を把握することで、入居前より習慣となっている日々の楽しみごとや嗜好品を継続出来る様、支援している。入居者様のそれぞれに合った出来る範囲で役割を担って頂き、テーブル拭きやトレイ並べ、洗濯干しやたたみ、掃除、新聞チラシ折り、袋たたみ等お手伝いをしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ流行前は、外出の際にスタッフの意見だけでなく、どこに行きたいか、何を食べたいか聞き、行事などに活かしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者様はご家族様と相談し、紛失してもいい金額をもって自己管理して頂いている。コロナ流行前に買い物希望があり外出した際はご自身でお支払いすることもある。入居者様の必要なものや入居者様から希望がある際スタッフが代行し買い物をしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ユニットの電話は入居者様から申し出がある際は、いつでも使いたいだけ使える様にしている。 ご家族様や友人から電話が来た際は、極力入居者様本人と代わっている。 手紙や年賀状のやり取りがある方は切手購入や投函等を支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、その日の天候・季節・時間によってカーテンや電気、加湿器等で配慮している。 スタッフの体感でなく入居者様の体感温度等に合わせ、一人一人が快適に過ごせる様に調整をしている。ユニットのホワイトボードにて季節の絵を掲示し季節を少しでも感じてもらえる様に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを配置しており、そこで自席を離れ、ゆっくりと過ごして頂いている。 席は気の合う入居者様が一緒になれる様に等適宜席替えを行い、少しでも皆さんにとってそれぞれ快適な居場所となる様に配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具や布団、インテリアは出来るだけ入居前に使い慣れた物を持ってきて頂き安心して頂ける様にしている。 ご家族様と写った写真や好きなぬいぐるみ等を配置している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、段差はなく、手すりを壁全面に取り付けている。 居室の家具や、リビングの机等の配置は動きやすい様に配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流等を組み込んだ理念を作り、毎朝唱和しスタッフ全員に意識付けると共に実践に繋げる取り組みを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回の保育園との交流や、近隣の教育機関の研修、ボランティアを積極的に受け入れる。又、年1回開催するバザーには毎年地域の方々にお越し頂き交流を図っている。子供110番、応急手当普及員の常駐等地域に役立てる様な取り組みを行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、家族や地域の民生委員の方に認知症について話をしたり、応急手当普及員の常駐を通じて理解を広める取り組みを行っている。コロナワクチンの流行により実施が出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括、民生委員、家族、（時折、他施設のスタッフ）に参加して頂き、利用者の状況や施設の行事、スタッフについて等の報告を行い、そこで出た意見をスタッフと共有し取り入れサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括や、保護課との連携。市主催の研修への参加を積極的に行っていたが、コロナウイルスの感染増加により研修に参加が十分に出来ていない。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に数回研修に参加し、それを全職員に周知する。また、身体拘束排除についてのマニュアルをいつでも見れる所に置いている。ユニットでは、入り口に鈴やセンサー等を付ける等の工夫をし、施錠をしない、見守りを徹底し身体拘束の無いケアに取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に数回、高齢者虐待についての研修に参加し、それを全職員に周知している。また、ユニット会議でケアについて職員で話し合い、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に数回、研修に参加し、学ぶ機会を設けている。また、必要な際には関係者と話し合い支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書の内容、グループホームについての説明を出来るだけ詳しく行い、質問等にじっくりと答える時間を設けている。料金改定など変更のあった際には、面会時、電話、文書などで理解を得る。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に、家族と情報交換、コミュニケーションを密に取り関係作りを行うことで、意見を言いやすい雰囲気づくりをしている。また、出た意見はすぐに職員間で共有し対応する。介護保険サービス苦情相談窓口のポスターを掲示し、意見を表せるように配慮している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者だけで決めるのではなく、ユニット会議等で職員の意見・提案できる機会をもうけて、運営に反映させるようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状態、努力を評価し時給のアップや役付を行うことにより、向上心、やりがいを持って働きがいのある職場づくりに努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用にあたっては、性別や年齢等は判断材料とせず、本人のやる気や能力や人柄で判断する様にしている。働く職員もやりたい仕事や研修は可能な限り行かせ能力が発揮出来る様に配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は人権についての研修や講習会に参加し、それを職員に伝える。又、常々ユニット会議等で利用者に対する人権の尊重について話をするようにしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市、県の研修の情報を掲示し希望者には受講させる。また、一人一人の力量に応じて、必要と思われる研修には積極的に参加させる。コロナウイルスの影響でオンライン研修が出て来たので参加を検討している。その際は勤務扱いにする事で働きながら学びやすい環境を作る。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に積極的に参加することにより、そこで知り合った同業者と情報交換を行うようにする。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族から集めた情報を元に、その時必要なサービスを見極め支援出来る様努めている。初期には、こまめにコミュニケーションをとる事で信頼関係を築き安心して生活が送れる様に努める。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前（見学时など）や、契約時に家族の意向を聞き取りサービス開始する上での不安点などを聞き取りサービスを行う。面会時等の際に細かな事でも状態報告等を行う。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からコミュニケーションを計り、情報を集め、その時に必要なサービスを見極め支援出来る様努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の立場に立って寄り添う介護を行うように心がけ、信頼し合える関係作りに努め、何か必要か医療機関の意見を参考に支援とサービスに取り入れる。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等で、本人と家族が触れ合えるきっかけ作りを積極的に行い、面会時の情報交換やこまめな状況報告等で共に本人を支えて行けるような関係作りに努めているがコロナウイルスで面会等が十分に実施できていない。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から情報を貰ったり、知人の面会時にはゆっくり話が出来様配慮する。行きたい場所があれば家族の協力を得、可能な限り叶えられるよう支援に努めているが、コロナウイルス		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を把握し、トラブルにならないよう配慮しながら、洗濯干しや洗濯畳等を一緒にしていただき利用者間が関われる環境作りに努める。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、バザー等の行事へのお誘いや面会などを行うことで関係を保って行ける様に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションの中で希望や、意向を聞き出せるように努めている。また、聞き出せた希望を可能な限り叶えられるよう努めている。困難な場合には本人の立場に立って、本人本位で検討する。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族やケアマネから、生活歴、経過などの情報を聞き取りを行うなどこれまでの生活の把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、心身状態やADLの現状の把握に努め、ケアに活かしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日頃のコミュニケーションから意見を聞き出し、ケアに活かす。家族の思いを聞き、ご本人やご家族の医師や要望を聞く。又、主治医やスタッフと話をし、意見を取り入れた介護計画を立てるようにしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があった際には経過記録に詳しく記録し、問題点や様子を共有をしていく。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃より本人と家族とのコミュニケーションを重視し、その時々ニーズに合わせて柔軟な支援を行える様に心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療機関の往診、訪問理美容、近隣の教育機関の訪問の受け入れなどを取り入れ安全で豊かな暮らしが出来る様に支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するなじみのかかりつけ医を受診出来る様に配慮している。かかりつけ医の受診、往診の際には情報交換を密に行っている。また、病状に合った医療機関の提案を行う事もある。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務しており、その際には現状の報告を密に行っている。また、往診看護師にも対象利用者の報告を密に行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より病院関係者との連携を図り、入院した際にも安心して治療を受けられるように情報交換を行っている。入院した際にも病院関係者とこまめに連絡を取り合い出来る限り早期に退院できるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申し込み時や入居の際に看護師が常駐していないため、医療行為が出来ない、看取りケアは出来ない旨、事業所に出来る事を十分に説明し、納得したうえでの入居となっている。また、重度化した際には本人や家族や医師と連携を取り方針を話し合う。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正社員は応急手当普及員講習に全員行っている。（定期的に更新の為の講習有）パート職員も全員避難訓練の際やユニットでの勉強会にて応急手当講習を受けている。希望者は消防局の研修にも行かせている。緊急時マニュアル、利用者の状態をまとめたファイルを常備し急変時にはスムーズに対応出来るようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日勤帯、夜勤帯を想定した避難訓練を行っている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格の尊重を重視し、認知症の違いを理解し、常に自身の言葉かけについて振り返る機会を持つ。スタッフ間でもお互いに気付いた事は注意し合う。ユニット会議等でも全員で話し合い、プライバシーを損ねない言葉かけを心がけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなく、本人の希望を最優先させるようにしている。また、自己決定の出来ない方は、表情や日頃の行動から読み取り対応するようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースではなく一人ひとりの入居者のペースに合わせ介護をするように心がけている。希望される事があれば、その日の勤務の職員で話し合い、出来る限り叶えられるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服は出来るだけ本人に選んで頂く。月1回の理美容では希望される髪型にするように配慮し、欲しい衣服等あれば、一緒に買い物へ行き好きな物を選んで購入出来る様支援している。また、一緒に買い物に行く事が難しい場合、買い物の代行で購入の支援していく。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせたテーブル拭きや後片づけ等のお手伝いをして頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取は毎日記録し食事や水分の低下が見られたら、食事形態を考え提供している。検食簿を記入し偏りのない食事を提供できる様に心掛けている。また、水分チェック表を記入し一日の水分量が確保出来る様に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、自身で出来る方は自身でしてもらい、出来ない場合は介助を行い、ケアしている。また、週1回の訪問歯科にて、口腔ケア、口腔内のチェックをして頂き、口腔ケアについてのアドバイスをもらうこともある。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつやりハビリパンツなしで失敗を防げるか、個々の排せつパターンを知るため必要な方は排せつチェック表を付けている。それを元に、工夫して来る限り使用しないようにしている。使用していた方も、本人、家族、職員間で話し合い極力自立に向けた支援が出来る様に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排せつチェックにて排便の間隔を把握する。水分、食物繊維の多い食べ物を積極的に取り入れるなど工夫をする。また、歩行可能な方は散歩等軽い運動も行うように働きかけている。どうしても出ない際には主治医に相談する。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本は週2回だが、ご本人が望まない時は曜日の変更を行っている。希望される際にはすぐに対応出来る様にしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	何事も無理強いせず、休息したい時には居室やリビングにてゆっくりしてもらっている。昼夜逆転を防ぐため散歩や、入浴、レクリエーションで活動する時間も設けている。就寝時間も特に決めておらず、一人ひとりの習慣に合わせ安眠出来る様に支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに薬情をまとめ、いつでも見れるようにしており、職員は必ず目を通し把握に努めている。服薬の際には必ず名前、服薬を確認し与薬した者がチェック表にサインをする。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技を活かし楽しみや役割を持って生活して頂けるように支援している。また、興味のある事などを聞き、楽しみを増やせるように続けている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス蔓延により外出が難しくなっているが、希望時には出来る限り出かけている。普段行けない場所に関しては、家族と話し合い、出かけられるように支援している。季節感を感じ取れるような、外出行事も考え支援する。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いは介護者が行うのではなく、金銭管理能力のある利用者は、お小遣いを持たせて買い物の際にはそこから自分で支払いをしている。手持ちが難しい方も、出来るだけ支払いの際にはお金を渡し自分で支払いが出来る様に支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望されれば、職員が仲介役になり、いつでも電話が出来る様になっている。荷物等を送りたい場合は郵便局にお連れする。また、暑中見舞いや年賀状のやり取りが出来る様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度・温度には注意し過ごしやすい空間づくりをする。また、季節感を出すような装飾をしたり、カーテンやクロスなども自然な色のものを使用するようにしている。また、危険因子は取り除き移動しやすく生活しやすい環境作りを心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルが3台あり、レクリエーションしている方達も居れば、一人でテレビを見る方も居る。思い思いに過ごしやすい雰囲気作りや、逆に孤独にならないように気配りをするように心がけている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、危険物以外は以前使われていた馴染みの家具を置けるようになっている。本人が居心地の良い空間になるように話しながら、空間作りを行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室や廊下には手すりがあり、バリアフリーになっていて安全に使用出来る様工夫してある。また、トイレや自分の居室もわかりやすくしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
			○	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない